

# 日野市第三期工業振興指針

平成 30 年 3 月

日野市



# 目 次

<b>第 1 章 日野市第三期工業振興指針の位置づけ</b> .....	<b>1</b>
第 1 節 日野市工業振興基本構想の最終ステージ.....	1
第 2 節 第二期までの成果と課題.....	1
第 3 節 第三期工業振興指針の位置づけ.....	8
<b>第 2 章 日野市第三期工業振興指針の目指すもの</b> .....	<b>9</b>
第 1 節 さらなる連携の推進と次なる展開.....	9
第 2 節 第三期工業振興指針の3つの施策の柱.....	10
第 3 節 第三期目標についての考え方.....	11
<b>第 3 章 日野市第三期工業振興指針における施策</b> .....	<b>12</b>
第 1 節 日野市第三期工業振興指針における施策の全体体系.....	12
第 2 節 各施策の概要.....	13
第 3 節 主要施策の成果指標.....	16



## 第 1 節 日野市工業振興基本構想の最終ステージ

日野市では、平成 24 年に策定した「日野市工業振興基本構想」における基本理念である“顔の見える産学官金の担い手による内発的産業創出都市「日野」の実現”を目指し、第一期に引き続き、平成 27 年度からスタートした第二期においても、日野市商工会や多摩信用金庫、支援機関等と協力しながら、地域企業のための支援体制整備と具体的なサポートを実施してきました。

そして、今般この第二期終了に伴い、計画と成果を分析し、平成 30 年度から始まる第三期(4 カ年)の課題解決の方向性とアクションプランの見直しを行いました。

## 第 2 節 第二期までの成果と課題

## 成果① 顔のみえるネットワークづくり、市内外への製品・技術のみえる化を推進

**基盤力** **連携力** の強化

第一期より、産業振興課職員及び多摩信用金庫の課題解決コーディネーターが市内企業を訪問し、事業運営の現状などのヒアリングを実施してきました。ヒアリングした課題に対して、市の支援事業紹介や国・東京都等の機関が実施する支援策等の情報提供を行うなどアフターフォローも行ってきました。

さらに、「産業人フォーラム」の開催や「日野おもてなしロボットプロジェクト」も進めるなど、産学官金連携を促進し、「顔のみえる」ネットワークづくりを進めています。

同時に、企業の特長ある製品・技術力及び大学研究室の研究内容を「日野市企業の魅力 PR レポート」としてまとめ、製品・技術の「みえる化」を行い、市内企業間や大学研究室とのマッチングツールとしてだけでなく、市内外への PR ツールとして活用しています。

このように、第一期では、「市内工業を支える企業」の情報収集からネットワークづくりを進め、さらに第二期においては、「チャレンジする企業」の発掘を進めることができました。



## (参考) 日野おもてなしロボットプロジェクト

概要	平成 25 年に開催されたスポーツ祭東京 2013 多摩国体を契機に、日野市を訪れた選手、観客などの来訪者に対し、工業都市日野の魅力を発信することを目的に、実行委員会形式によりロボットプロジェクトを立ち上げました。ヤマグチロボット研究所の山口氏を中心に、市内中小企業 6 社が参加、連携協定を結ぶ首都大学東京の学生によるデザインを基に、カワセミロボットを製作。ベースとなる駆動部は、同じく連携協定を結ぶ東京都立産業技術研究センターが開発した T 型ロボットを活用しています。
参加企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヤマグチロボット研究所(技術指導・ロボット設計・知的財産管理)</li> <li>・ (有)西東京電機(電子応用機器の開発・設計・製造)</li> <li>・ (株)秀亜プロダクツ(電子機器配線・組立)</li> <li>・ (株)八木製作所(精密部品加工及び治具設計・製作・組立)</li> <li>・ (株)光レジン工業(FRP 成形品の設計・製造・販売)</li> <li>・ (有)アクシズエンジニアリング(各種デザイン、バイクパーツ設計・製造・販売)</li> </ul>



平成 30 年 2 月現在

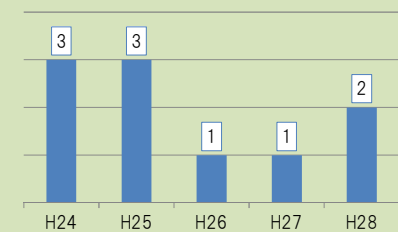
企業力のステップアップを促進するため、企業経営面の相談に対応するための「専門家派遣事業補助金」、新製品・新技術開発等にも活用できる「事業拡大支援事業補助金」といった課題解決型支援の他、展示会出展を支援する「販路開拓支援事業補助金」、東京都立産業技術研究センターでのサービス利用を支援する「ものづくり産業開発支援補助金」といった成長促進型支援を進めてきました。

このように、中小企業が事業継続・事業拡大を進めていく際の成長ステージごとの課題解決に向けた支援を展開してきました。

(参考) 専門家派遣事業補助金

事業概要	企業の個別事業における経営面からの助言を行うため中小企業振興公社が実施する専門家派遣に要する費用の一部を補助します。専門家には、中小企業診断士、社会保険労務士、ITコーディネーター等が想定されます。
限度額	10,000円 × 8回
H29実績	【平成29年度 採択概要】 3件を採択しました。 → 医療機器製造：工場設立・運営について(8回分) → 生活支援用品製造：WEBマーケティング(8回分) → 印刷：経営全般、新規開拓(8回分)

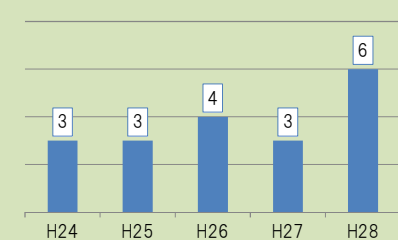
【事業採択件数の推移】



(参考) 事業拡大支援事業補助金

事業概要	自社の課題解決を目指す市内中小事業者を支援するため、成長に向けた幅広い取り組みに対する経費の一部を補助します。																			
限度額	【一般型】150万円(補助率1/2) 【成長促進型】300万円(補助率1/2)																			
対象事業	自社の課題解決や連携・事業拡大を目指す事業(例：新製品・新技術の開発、販路開拓、人材育成など)																			
H29実績	【平成29年度 採択概要】 ※一部事業者に対して申請額の一部を交付成長促進型を含めた9件の申請に対し7件を採択しました。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>タイプ</th> <th>業種</th> <th>採択事業概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">一般型</td> <td>金属精密加工</td> <td>生産効率向上のための測定器の導入</td> </tr> <tr> <td>スポーツ支援用具製造</td> <td>生産効率向上のための製造機器の導入</td> </tr> <tr> <td>印刷</td> <td>一部内製化による付加価値向上のための機器導入</td> </tr> <tr> <td>光学部品製造</td> <td>自社技術を活かした新ブランド開発事業</td> </tr> <tr> <td>放送機器製造</td> <td>次世代規格対応放送機器開発のための測定器導入</td> </tr> <tr> <td>バイクパーツ製造</td> <td>生産設備監視アプリケーション接続用モジュール開発</td> </tr> <tr> <td>成長促進型</td> <td>医薬品製造</td> <td>健康食品等の効果効能に関する大学との共同研究</td> </tr> </tbody> </table>	タイプ	業種	採択事業概要	一般型	金属精密加工	生産効率向上のための測定器の導入	スポーツ支援用具製造	生産効率向上のための製造機器の導入	印刷	一部内製化による付加価値向上のための機器導入	光学部品製造	自社技術を活かした新ブランド開発事業	放送機器製造	次世代規格対応放送機器開発のための測定器導入	バイクパーツ製造	生産設備監視アプリケーション接続用モジュール開発	成長促進型	医薬品製造	健康食品等の効果効能に関する大学との共同研究
タイプ	業種	採択事業概要																		
一般型	金属精密加工	生産効率向上のための測定器の導入																		
	スポーツ支援用具製造	生産効率向上のための製造機器の導入																		
	印刷	一部内製化による付加価値向上のための機器導入																		
	光学部品製造	自社技術を活かした新ブランド開発事業																		
	放送機器製造	次世代規格対応放送機器開発のための測定器導入																		
	バイクパーツ製造	生産設備監視アプリケーション接続用モジュール開発																		
成長促進型	医薬品製造	健康食品等の効果効能に関する大学との共同研究																		

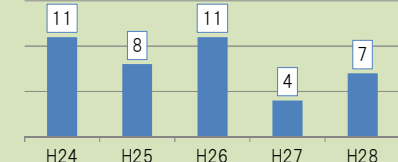
【事業採択件数の推移】



(参考) 販路開拓支援事業補助金

事業概要	受注機会拡大や販路開拓を目指す中小企業が展示会等に出席する際、その費用の一部を補助します。
限度額	20万円(補助率1/2)
対象	出展料、装飾費、PR経費(チラシ・サンプル作成)
H29実績	【平成29年度 採択概要】 5件を採択しました。

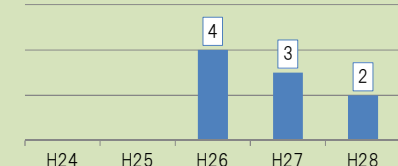
【事業採択件数の推移】



(参考) ものづくり産業開発支援事業補助金

事業概要	東京都立産業技術研究センターで実施するサービス利用に係る経費について、その費用の一部を補助します。(平成26年度より開始)
限度額	6万円(補助率1/2)
対象	東京都立産業技術研究センターの利用(依頼試験、機器利用、技術支援)
H29実績	【平成29年度 採択概要】 1件を採択しました。

【事業採択件数の推移】



※ 「平成29年度実績」は、平成29年2月現在の採択件数等を示しています。

成果③ 連携のハブとなる多摩平の森産業連携センター「PlanT」の設置・運営

【基盤力】 【連携力】 の強化

平成 27 年 10 月、PlanT(日野市多摩平の森産業連携センター)は、市民や企業、大学、創業を目指す方々など様々な主体が知識・技術アイデアを組み合わせることで革新的な新事業や製品・サービスを創造することを目的として設立され、連携イベント開催等各種事業も含め運営を行っています。

【PlanT 内部の様子】



(参考) PlanT(日野市多摩平の森産業連携センター)について

設立	平成 27 年 10 月
協力企業・団体	【事業主体】日野市／【創業支援プログラムサポート】多摩信用金庫／【企画・運営サポート】株式会社ピタ／【協力企業・団体】GE ヘルスケア・ジャパン株式会社、コニカミノルタ株式会社、帝人ファーマ株式会社、富士電機株式会社、株式会社富士通研究所、実践女子学園、明星大学、首都大学東京
PlanT(プラント)とは	英語の plant という単語には【植物】や【生産施設・設備】また【種をまく・植える】などの意味があります。市民や企業、大学、創業を目指す方々などの交流により生まれた新たな産業の種が、ここで育ち、そして成長して社会へ飛び立っていくというイメージを想起するこの言葉が、緑あふれる多摩平の森にある施設の愛称として相応しいと考えました。また遠い先の未来だけを考える場ではなく、生活に根差した日常からヒントを導き出し、今日(Today)と明日(Tomorrow)を計画(Plan)し、身近なことから実践していく産業連携を目指す私たちの意志を PlanT のTを強調していることで表現しています。 
コンセプト	「仕事」「学び」「生活」が集まる多摩平エリア、そこにある PlanT では、企業で働く人、学生、住民の皆さんなど、様々な人に出会うことができます。PlanT での出会いや交流を通じて、皆さんが持ち寄った想いは、やがて新しい価値へと成長していきます。それは自分自身、家族や仲間、そして地域の成長であると同時に、そのプロセスはまさに未来づくりに他なりません。PlanT は多様な用途の空間が緩やかに繋がれ、利用者同士の偶然的な出会いや発見が生まれるオープンなイノベーション環境を目指しています。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創業個別相談</li> <li>・ 日野市創業スクール、日野市主催「変革力」強化プログラム「ビジネス・ブートキャンプ」</li> <li>・ トークセッションシリーズ「PlanT lab.(プラント・ラボ)」</li> <li>・ 日野市ビジネスチャレンジセミナー 等</li> </ul> 

成果④ ものづくり人材の発掘・育成や、起業・創業環境整備を推進

【連携力】 【人材力】 の強化

大学との連携事業として「職場体験」や「バスツアー」、「企業説明会」、「交流会」、「技術セミナー」を実施し、大学・事業者相互の理解を深めるとともに、ものづくり人材の発掘を進めてきました。また、市内の中学校と連携をしてエンジニアの卵を育成することを目標として「ものづくりの楽しさ応援プロジェクト」も行っています。その他、「次世代リーダー育成講座」では、経営者・後継者となる次世代のリーダーの育成や事業継承の支援を進めています。

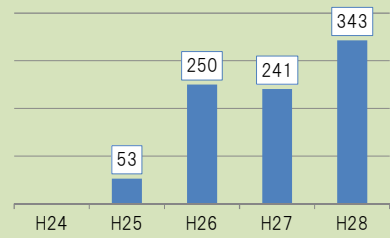
また、前述のとおり、PlanT(日野市多摩平の森産業連携センター)の設立を契機に、個別相談やスクール、セミナー等を展開し、市内に新たな起業・創業者が誕生しています。



(参考) ものづくりの楽しさ応援プロジェクト

事業概要	進路の方針が決まる前の15歳までにものづくりの楽しさを体験し、創造力のあるエンジニアの卵を育成するため、明星大学・日野市商工会と各種教室を開催しています。(平成25年度より開始)
	<b>【日野市商工会への補助事業】</b> 平成25年度 アイデア発想法と3DCAD、3Dプリンターの教室 平成26年度 3Dプリンター、ロボットプログラム教室 平成27年度 小型PC活用、ゲームプログラム・ロボットプログラム教室 平成28年度 ロボット大会への参加、3Dプリンター教室(指導者育成)
H29(予定)	<b>【平成29年度(予定)】</b> 3Dプリンター教室(上級含む)、ロボット大会への参加、プログラミング教室を予定しています。

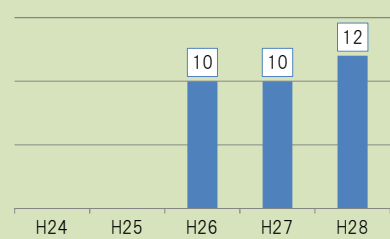
【参加者数の推移】



(参考) 次世代リーダー育成講座

事業概要	企業の後継予定者や幹部社員などを対象に、後継者として知っておきたい知識の習得や参加者同士の交流を図り、育成プログラムを実施しています。(平成26年度より開始)
日程	全6回(月1回程度)
対象	概ね20歳から40歳台
募集	10名
H29(予定)	<b>【平成29年度(予定)】</b> 平成29年度は、これまでの卒業生へのフォローアップセミナー等の企画を予定しています。

【参加企業数の推移】





企業の成長に向けた設備投資を促すとともに良好な事業用地の保全を図り、産業と住宅が共存する持続可能なまちづくりを行うため、市内で一定の要件を満たす設備投資を行う場合に、固定資産税額、都市計画税額相当分等の奨励金を交付する企業立地支援制度を構築し、平成 27 年度から運用しています。

また、市内での操業継続を希望するものづくり企業等が行う操業環境の改善を図る取組に対する支援制度であるものづくり企業等立地継続助成金も平成 28 年度から運用を開始しました。

(参考) 企業立地支援制度

事業概要	市内の工業系用途地域において一定の要件を満たした設備投資を行う企業等に対し、固定資産税・都市計画税相当額を奨励金として交付(キャッシュバック)します。 また、研究開発など新たな産業の創出を図る施設等に対しては、交付期間を延長します。
推移	【指定企業数の推移】 平成 27 年度 2 件 平成 28 年度 2 件
H29 (予定)	【平成 29 年度(予定)】 生産設備設置奨励金について 1 件指定

(参考) ものづくり企業等立地継続助成金

事業概要	市内ものづくり企業等が操業環境の改善を図る取組に対し、必要となる経費の一部を助成します。(平成 29 年度新規事業)
限度額	375 万円(補助率 3/4)
対象事業	工場の操業により生じる騒音、悪臭、振動等に関して近隣住民等へ配慮することを目的とした事業(工場の改修、移転及び設備の更新・導入 など)
H29 実績	【平成 29 年度】 2 件を採択しました。

## 成果総括

平成 24 年度に設置された工業振興基本構想推進協議会(現工業推進協議会)の運営により、事業や施策の評価検証を定期的に行いながら工業振興を進めてきました。「基盤力」の強化として、企業訪問による顔の見える関係づくりに始まり、企業立地支援条例の制定による企業誘致や保全、産業連携センターPlanT の設立など一定の成果をあげてきました。一方で、工業用地の確保による工業基盤の整備については課題を残しています。

「連携力」の強化では、多様な主体との連携を図ってきました。日野市商工会、金融機関、大学、支援機関、企業、NPO など共同で事業を実施し、外部の情報や強みを取り入れながら施策を実施してきました。また、「日野市企業の魅力 PR レポート」による市内企業のみえる化や、「日野おもてなしロボットプロジェクト」などによる連携事業を通して、域内ネットワーク構築の下地作りを行いました。今後は、これまで事業を通して得たノウハウ、多様な主体とのつながりを活かして、個々の企業の「経営力」、「技術力」、「人材力」の強化へと結び付けていく「連携力」の深化が求められます。

「経営力」、「技術力」の強化では、外部支援機関の活用支援、補助金による販路開拓や事業拡大の支援、融資斡旋制度による資金調達の支援などを行ってきました。「経営力」、「技術力」の向上は、市の直接的な支援が難しい分野ですが、外部支援機関や補助金による間接的な支援を通じて企業経営をバックアップしてきました。

「人材力」の強化では、「次世代リーダー育成講座」や「ものづくりの楽しさ応援プロジェクト」などを実施しました。特筆すべき点として、「次世代リーダー塾」の卒業生による自主的な集まりが生まれ、市内企業のネットワーク構築にも成果が出始めていることが挙げられます。

### (参考) 「日野市工業基本構想」で定めた日野市工業振興における 5 つの課題

基盤力	地域企業が事業継続・拡大をしていくための環境基盤の力
連携力	地域内の産産・産学官金の顔の見える関係やネットワークの力
経営力	社会環境の変化に対応して事業を営む経営の力
技術力	企業の競争力となる技術の力
人材力	企業の競争力となる人材の力

### 課題① 受け身型企業からの脱却が必要(提案型企業へ)

経営力 の強化

平成 29 年 2 月に実施した市内ものづくり企業に対するアンケート調査の結果をみると、小規模ながら元気な企業が存在しており、新事業・分野への挑戦や新技術等の開発意向がある企業が比較的多く存在していることがわかりました。また、大企業の試作品開発に携わる企業など、技術力の高い企業も立地しています。

一方で、受け身型の企業も存在し、価格競争に巻き込まれているケースは少なくありません。このまま技術を量り売りするような事業展開では、新事業や新分野に挑戦することも難しく、事業継続・事業拡大は期待できません。

今後、市内企業が積極的に挑戦をし、市内ものづくりを牽引する存在(企業)となり得るためには、技術に価値を付加し、提案型の企業を目指すことが突破口の一つであると考えられます。

### 課題② 外部との連携による製品・サービス開発(オープンイノベーション)はあまり進んでいない

連携力 技術力 の強化

平成 29 年 2 月に実施した市内ものづくり企業に対するアンケート調査の結果をみると、「大学・企業等との連携」について全体的にはあまり重視されていないという結果が出ています。オープンイノベーションの導入は進んでいないと考えられます。これまで地域企業と大企業や他地域企業との橋渡しや大学との産学連携を促進してきましたが、現在のところ十分な成果を得られていないと考えられます。

今後、様々な主体との連携をさらに促進することで、外部アイデアを活用した新たな事業展開(チャレンジする企業)への支援も想定されます。

### 課題③ 新たなものづくりの担い手の発掘・育成が急務

人材力 の強化

中長期的なスパンで見ると事業継承が経営課題として挙がる市内企業は多く存在します。そのリスクを回避するためには、新たなものづくりの担い手の発掘・育成が急務となっています。

一方で、前述のように、既にものづくり人材発掘・育成の取組は進めているものの、今後、人材確保に向けた既存事業の拡充や新規事業による積極的な支援が求められます。

### 課題④ 限られた予算と人員体制において施策の選択と集中が必要

基盤力 の強化

第二期までは、「顔のみえる」ネットワークづくりと普及浸透に時間のかかる施策のフォローアップと掘り下げを実施してきましたが、限られた予算と人員体制の中で多岐にわたる事業を進めてきました。第三期では「産業を牽引する企業」を育てていくため、「チャレンジする企業」を対象とした積極的支援を中心として、波及効果が期待される施策へ注力するために、施策の選択と集中の視点が必要とされます。

### 課題⑤ 重点施策の設定と効果測定(効果のみえる化)が必要

基盤力 の強化

第一期では「工業振興基本構想推進のための基礎づくり」を進め、第二期では「工業振興基本構想の着実な具現化・定着」を目指しました。仕上げの第三期として「工業振興基本構想の達成・内発的行動の顕在化」を促進していくためには、同時に重点施策の設定と効果測定(効果のみえる化)が重要となります。

そのためには、第三期工業振興指針においては、前述のとおり、選択と集中の視点を持ちながら、主要な施策に対してKPI(重要業績評価指標)を設定した進捗管理が求められます。

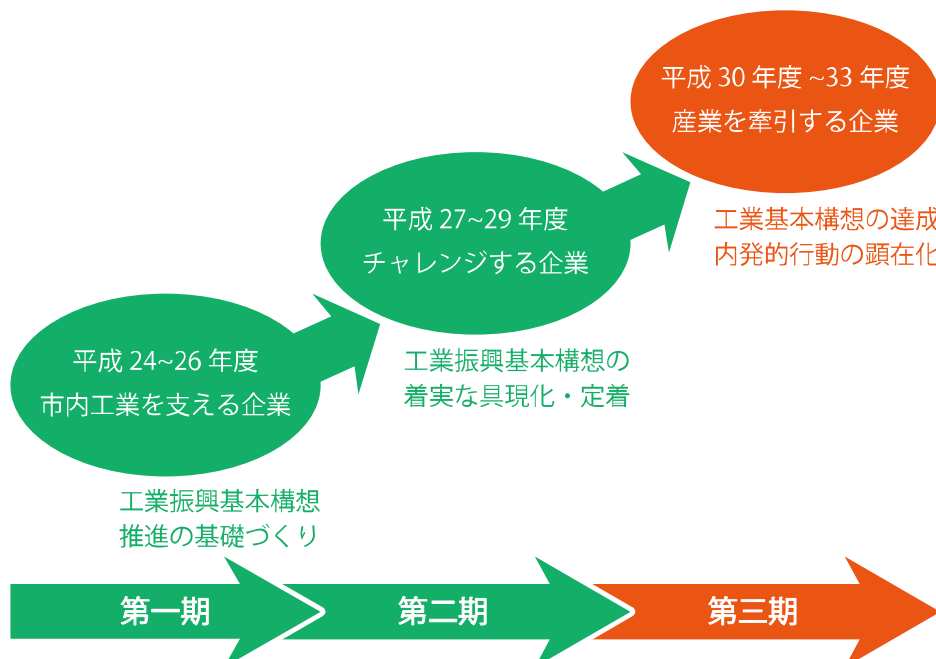
### 第3節 第三期工業振興指針の位置づけ

第三期工業振興指針は、平成30年度～平成33年度において、日野市と関係主体が、市内ものづくり関連企業に向けて実施していく各種支援施策の方針であり、市の工業振興を進めていくためのガイドラインとなります。

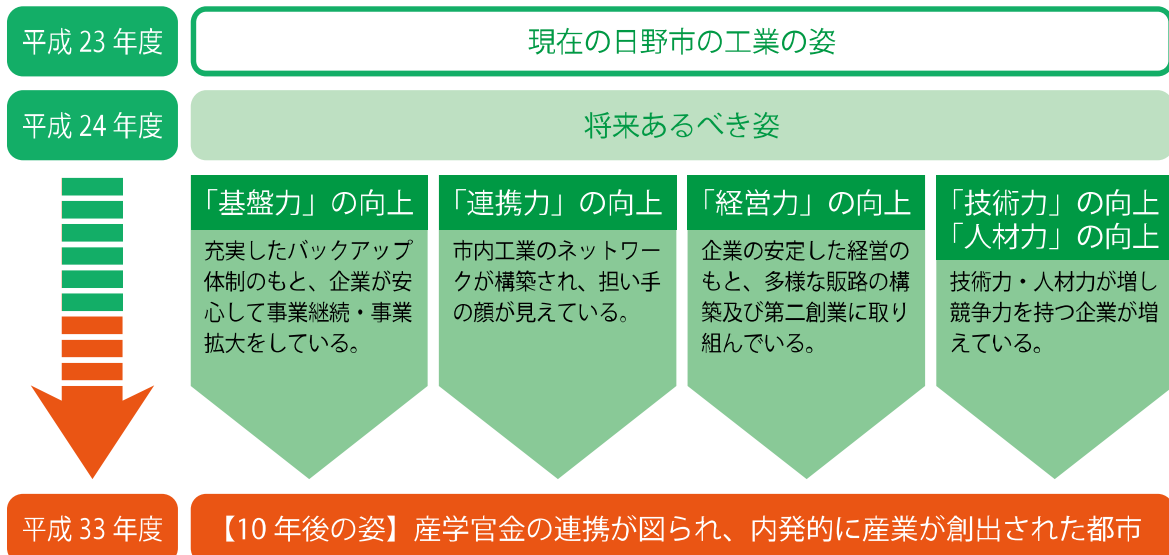
第一期工業振興指針においては、初動段階として「工業振興基本構想推進の基礎づくり」を進めました。第二期工業振興指針においては、次なる展開として「工業振興基本構想の着実な具現化・定着」を目指し、多岐にわたる施策を実施していききました。

今回の第三期工業振興指針は、平成24年度より開始された基本構想10年における仕上げの期間として位置づけられ、「工業基本構想の達成・内発的行動の顕在化」を目指し、各施策を実施していくものです。

#### ◆基本構想における各工業振興指針の位置づけ◆



#### ◆基本構想における「工業振興により目指す将来あるべき姿」◆



## 第1節 さらなる連携の推進と次なる展開

日野市におけるものづくりの強みとしては、①小規模ながら元気な企業の存在、②限定的な技術集積ではなく、多様性ある企業立地、③挑戦意識・意向も比較的高い、④研究開発型企業・人材の存在(エンジニア、OB人材等)などが挙げられます。

また、日野市のものでづくりに関連するシーズ・ポテンシャルとしては、①連携・創業を支援する産業連携センターPlanT、②市内(周辺)には多様な大学が立地、③多世代コミュニティと医療・介護施設(生活課題の発見・テストの場)、④都心部へのアクセスも比較的良好(連携の幅は広い)などが挙げられます。

こうした日野市の特徴に加えて、第二期までの成果や課題を反映し、日野市第三期における振興の方向性を定めます。成果統括を踏まえて、多様な主体との連携を深化させ、個々の企業に対する一歩進んだ支援を目指すこととします。また、第二期までの課題から、企業に外部連携を促し、事業・製品・サービス開発などの新展開を支援することを目指します。

第三期工業振興指針の推進によるアウトプットのイメージとしては、①PlanTをネットワーク拠点とした活発な外部連携(オープンイノベーション)、②生活課題から新たな産業化(生活者目線の製品、サービス開発)、③強みを活かした挑戦企業の出現(価格競争から脱出/価値創出型へ)、④地域資源を活用した事業創造(自然・産業資源を活かした価値の付加)、⑤made in HINOのブランド化(新たなものづくり集積形成へ)が実現することを期待しています。

## ◆第三期における振興の考え方◆



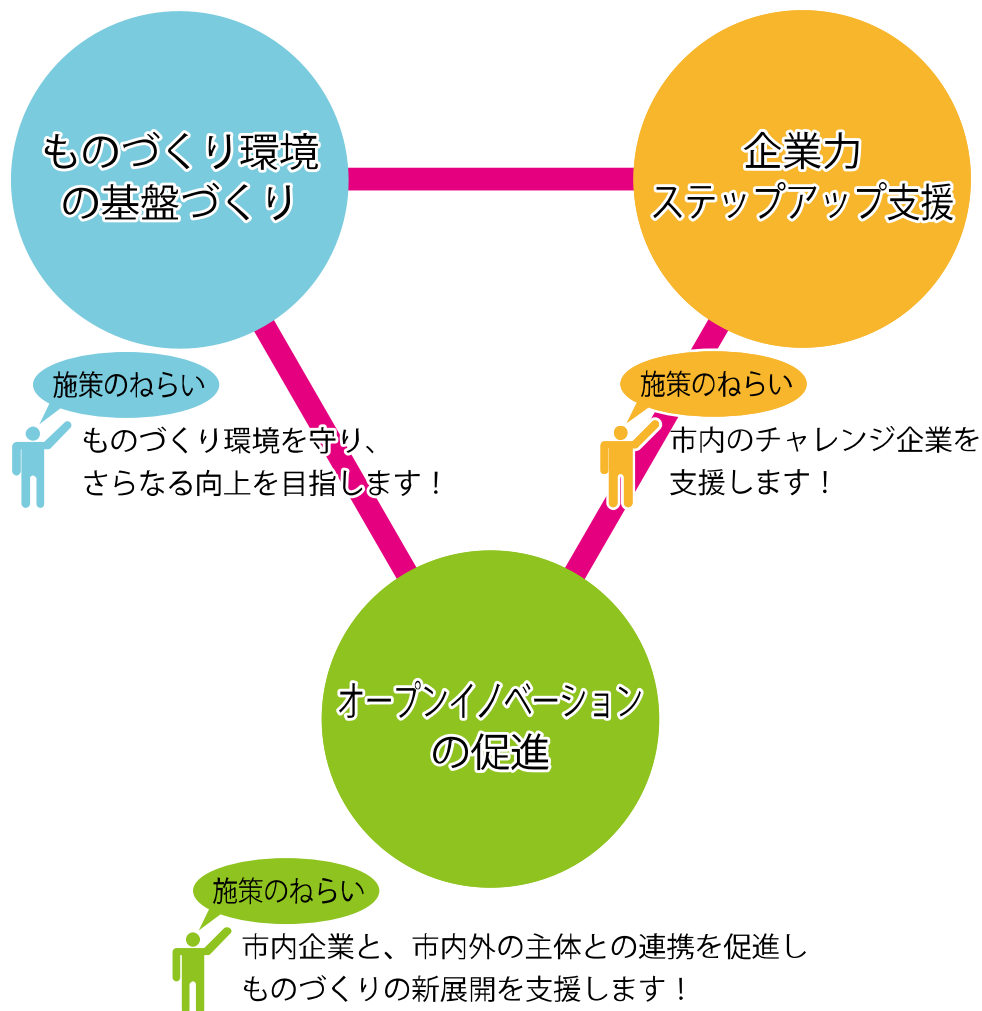
第三期では、日野市工業推進協議会において実施した第二期の検証等を踏まえて、下図のように3つの施策の柱を想定しています。

1つ目の柱には、工業振興を支えるベーシックな施策として、ものづくり環境を守り、さらなる向上を目指すための施策群「ものづくり環境の基盤づくり」を設定します。

2つ目の柱には、ものづくりの新展開を支援する施策として、市内企業と市内外の主体との連携を促進することで、企業に外部アイデアや外部資源と出会う機会を提供する施策群「オープンイノベーションの促進」を設定します。

3つ目の柱には、成長意欲のある市内のチャレンジ企業を支援する施策群「企業力ステップアップ支援」を設定します。

◆第三期工業振興指針の3つの施策の柱◆





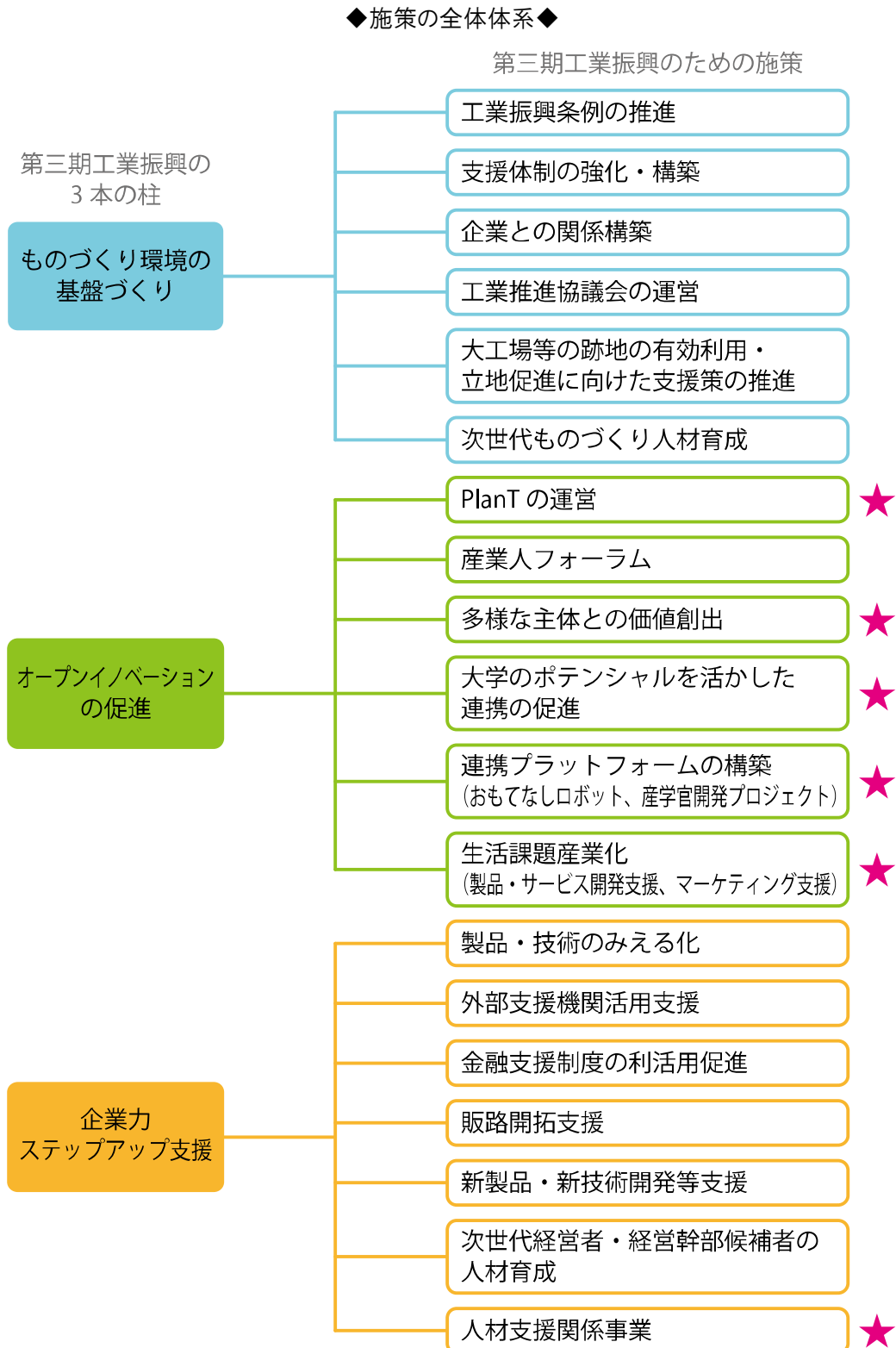
第三期工業振興指針においては、第二期にコンセプトを打ち出した企業間・産学連携で強い事業を創り出す「牽引プロジェクト」の本格実施の期間にあたります。日野市の特徴である多様な企業立地に対応した取り組みとするため、コアになる連携事業によるテーマ限定的な内容とはせず、連携を促す様々な施策群による企業の課題解決・成長支援に取り組むこととします。

また、第三期工業振興指針は「基本構想」10年における仕上げ期間にあたります。前述のとおり、限られた予算と人員体制の中でも最大の効果を発揮できるように、選択と集中の視点を持ちながら、より波及効果が期待される施策へ注力するため、主要施策を設定し、事業の進捗管理を行います。

また、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)やAI(Artificial Intelligence:人工知能)をはじめとする情報処理・情報通信技術の革新が進み、ものづくりにおける外部環境がより一層著しく変化していくことが予想されます。こうした状況を鑑みて、第三期における各施策(各事業)においては、計画の柔軟性を高めて推進していくことが必要であり、施策やKPIの見直しも逐次求められます。

第1節 日野市第三期工業振興指針における施策の全体体系

日野市第三期工業振興指針における施策の全体体系は下図のとおりです。



★ 第三期振興指針における「主要施策」を示します。

## 第 2 節 各施策の概要

### 施策の柱① 「ものづくり環境の基盤づくり」に関する施策

No.	主要施策	施策名	対応する課題					概要	参画主体					
			基盤力	連携力	経営力	技術力	人材力		市	企業	商工会	支援機関	金融機関	大学
1		工業振興条例の推進	●					工業振興にあたっての基本的な考え、基本理念及び施策の方針を定めた工業振興条例に基づき、各事業の着実な推進を図ります。	◎	○	○	○	○	○
2		支援体制の強化・構築	●					これまで企業訪問や各種支援事業を通し築いてきた行政職員と事業者との関係性を活かしながら、持続可能な支援体制づくりを進めます。	◎		○	○	○	
3		企業との関係構築	●					施策を活用した企業や成長志向の事業者を中心に企業訪問等を行い、施策の評価・検証を行うとともに、成長支援施策の紹介や課題解決のための情報提供を行います。	◎	○	○	○	○	○
4		工業推進協議会の運営	●					工業振興基本構想、第三期工業振興指針で掲げる施策・事業を着実に推進するため、経済情勢等を踏まえた評価検証を行います。 最終年度となる平成 33 年度には、工業振興基本構想計画期間後の方向性についても協議を行います。	◎	○	○	○	○	○
5		大工場等の跡地の有効利用・立地促進に向けた支援策の推進	●					企業立地支援条例の PR や運用を通じ、大手企業と行政で顔のみえる関係を築きながら、ものづくりの拠点として整備できるよう、誘導していきます。 また、工業系用途の不動産に関しては、市有地等も含め適宜情報発信を行います。	◎	○	○		○	
6		次世代ものづくり人材育成	●				●	進路が決まる前の 15 歳までの子どもを対象に、3D プリンターやロボットプログラムなどをテーマとした教室等を開催し、ものづくりの仕組みを知る機会を増やすことで、創造力のあるエンジニアの卵を育成します。	◎	○	◎			◎

※ 主要施策:「★」の付している施策は主要施策に位置づけていることをあらわします。

※ 参画主体のうち「◎」は主体、「○」は参画を示します。

施策の柱②

「オープンイノベーションの促進」に関する施策

No.	主要施策	施策名	対応する課題					概要	参画主体					
			基盤力	連携力	経営力	技術力	人材力		市	企業	商工会	支援機関	金融機関	大学
1	★	PlanTの運営	●	●			●	多摩平の森産業連携センターPlanTの運営を通して、起業家のほか地域の企業や大学など様々な主体が交流・連携を図ることで新しい価値や技術が生まれ、内発的産業が創出されるような環境を目指します。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2		産業人フォーラム	●	●				市内のものづくりに関する産学官金のメンバーが一堂に会する交流会を定期的に行い、最新の経済や技術動向等の情報を共有するとともに相互補完によるイノベーションの創出や連携の促進を図ります。	○	◎	◎	○	○	○
3	★	多様な主体との価値創出	●	●				行政と企業や大学、地域で活動するNPO等が、地域課題や産業について考える場をつくり、団体間の交流・連携を通して新たな技術・サービスの開発や地域の活性化を図ります。	◎	○	○	○	○	○
4	★	大学のポテンシャルを活かした連携の促進		●				大学の連携窓口との関係性を強化し、市内事業者への情報提供・相談の仕組みづくりを行うとともに産学連携に結びつく連携事業を実施します。	◎	○	○	○	○	◎
5	★	連携プラットフォームの構築 (おもてなしロボット、産学官開発プロジェクト)		●		●		オープンイノベーションの推進事業として「日野おもてなしロボットプロジェクト」及び「産学官開発プロジェクト」を実施し、モデル事業としてPRするとともに市内事業者や大学研究室が参加できるプラットフォームを構築します。 また、各プロジェクトの事業化に向けた検討を進めます。	◎	◎	◎	◎	◎	◎
6	★	生活課題産業化 (製品・サービス開発支援、マーケティング支援)			●	●		地域住民の生活の中での「困りごと」を市民・事業者が対話を通し共有することで、企業がもつアイデア・技術による課題の新たな解決法の発見や、消費者の声を反映させた商品・サービス開発を進めます。	◎		○	○	○	

※ 主要施策:「★」の付している施策は主要施策に位置づけていることをあらわします。

※ 参画主体のうち「◎」は主体、「○」は参画を示します。

施策の柱③ 「企業カステップアップ支援」に関する施策

No.	主要施策	施策名	対応する課題					概要	参画主体					
			基盤力	連携力	経営力	技術力	人材力		市	企業	商工会	支援機関	金融機関	大学
1		製品・技術のみえる化		●		●		企業の特徴ある製品・技術及び大学研究室の研究内容について、「企業の魅力PRレポート」としてまとめ、製品技術の「みえる化」を行い、受発注及び共同研究・共同開発等の連携を促進します。	◎	○	○	○	○	○
2		外部支援機関活用支援		●	●	●	●	多摩信用金庫、東京都中小企業振興公社、東京都立産業技術研究センター、東京しごとセンター等の外部支援機関の支援策の情報提供を行うとともに、必要に応じて利用にあたっての資金補助を行うなど支援策活用の誘導を図ります。	◎	○	○	○	○	
3		金融支援制度の利活用促進			●			企業の経営基盤の安定・強化を図るため、金融機関と連携し、市の融資制度、その他公的融資制度の利活用を促進します。	◎				◎	
4		販路開拓支援			●			受注機会拡大や販路開拓を目指す中小企業が、国内外で開催される展示会・見本市に出展する際、その経費の一部を補助し、市内企業の新事業展開の促進を図ります。	◎			○		
5		新製品・新技術開発等支援		●		●		自社の成長に向けた課題解決を図る際、その経費の一部を補助します。 インセンティブを付与することで産学連携や企業間連携などの取り組みを促進します。	◎	○	○	○	○	○
6		次世代経営者・経営幹部候補者の人材育成					●	次世代の経営者・経営幹部候補者に対し、事業を継続し続けられるよう自社のあるべき姿を定性的・定量的に描ける人材育成を行う連続的なセミナーを実施します。また、後継者が不在で事業継続を望む経営者も含め、専門家による説明や相談を受けられる機会を提供します。	◎	○	◎	○	◎	
7	★	人材支援関係事業					●	市内企業の人材確保のため、東京しごとセンター等の人材活用や求人に関する支援機関と連携し、企業が様々な人材の活用を図れる仕組みを検討・実施します。	◎		○	○	○	

※ 主要施策：「★」の付している施策は主要施策に位置づけていることをあらわします。

※ 参画主体のうち「◎」は主体、「○」は参画を示します。

### 第3節 主要施策の成果指標

No.	施策名	概要	目標値
1	PlanT の運営	多摩平の森産業連携センターPlanT の運営を通し、起業家のほか地域の企業や大学など様々な主体が交流・連携を図ることで新しい価値や技術が生まれ、内発的産業が創出されるような環境を目指します。	・ PlanT で開催される交流等のイベント件数:100 件
2	多様な主体との価値創出	行政と企業や大学、地域で活動するNPO 等が、地域課題や産業について考える機会を創出し、団体間の交流・連携を通して新たな技術・サービスの開発や地域の活性化を図ります。	・ 市が連携、参画する事業数:10 件
3	大学のポテンシャルを活かした連携の促進	大学の連携窓口との関係性を強化し、市内事業者への情報提供・相談の仕組みづくりを行うとともに産学連携に結びつく連携事業を実施します。	・ 大学の連携窓口との共同事業、イベントの実施:10 件
4	連携プラットフォームの構築(おもてなしロボット、産学官開発プロジェクト)	オープンイノベーションの推進事業として「日野おもてなしロボットプロジェクト」及び「産学官開発プロジェクト」を実施し、モデル事業として PR するとともに市内事業者や大学研究室が参加できるプラットフォームを構築します。また、各プロジェクトの事業化に向けた検討を進めます。	・ 参加事業者数:10 社 ・ PR 事業の実施:3 件/年度
5	生活課題産業化(製品・サービス開発支援、マーケティング支援)	地域住民の生活の中での「困りごと」を市民・事業者が対話を通し共有することで、企業がもつアイデア・技術による課題の新たな解決法の発見や、消費者の声を反映させた商品・サービス開発を進めます。	・ 参加事業者数:延べ 20 社
6	人材支援関係事業	市内企業の人材確保のため、東京しごとセンター等の人材活用や求人に関する支援機関と連携し、企業が様々な人材の活用を図れる仕組みを検討・実施します。	・ 事業活用件数:10 件/年度



## 日野市第三期工業振興指針

平成 30 年(2018 年) 3 月発行

発行:日野市 東京都日野市神明 1-12-1 (〒191-8686)  
TEL 042-514-8442 (直通)  
FAX 042-583-4483  
E-mail [sangyo@city.hino.lg.jp](mailto:sangyo@city.hino.lg.jp)

事務局:日野市産業スポーツ部産業振興課





